

学校の教育目標：やさしく かよく たくま 経営方針：心の宝物が輝く学校



かよ TEAM

令和 3 年度
笠原小学校
学校便り
10 月 29 日号

児童会：笑顔と優しさであふれるあたたかい学校にしよう

「心に寄り添う」と「親切」 校長 鈴木 稔朗

10月21日(木)から2日間、5年生の宿泊研修に同行しました。根ノ上高原は秋深まり、凜とした冷気で迎えてくれました。澄み渡った空に浮かぶ恵那山に見守られ、豊かな自然の中で、ボートや火起こしなど、日頃はできない様々な体験活動を笑顔いっぱいで行いました。そうして、一段とたくましく成長しました。4月からここまでの日常生活で取り組んできたよさ見つけ、掃除、直前の取り組みを通して、一人一人の心に培われた豊かなものが見事に行事で花咲きました。とりわけ感動したのがキャンプファイヤーでの姿です。火の周りで行ったレクリエーション。準備の際、忘れた備品を俊敏に捜しに行ってくれたSSさん、ボール回しを見事に進行し、合間には全力疾走でボールを回収したSO君、KR君、周囲の山に響くほどの大声で「猛獣狩りに行こうよ！」と仲間を鼓舞し続けたSJ君、マイムマイムで何度も「盛り上がりましょう～！」と、これも大声で、仲間の心に勇気の火を届けたTS君。笑顔で応える仲間達。係の子と、支えるそれ以外の子の心が通い合った素敵な時間でした。卒業の日、6年間を振り返ったときにも、ひときわ輝くにちがいない宝物ができました。

標題のことについて「『心に寄り添う』ってどんなこと？」と放送で子どもたちに投げかけました。先日笠原中学校で行われた、小中一貫で道徳を考える研究会で話題になったことでした。そうして「小学生には理解が難しい」と結論された問いでした。私は内心「本当にそうだろうか」と考えていました。明確に言葉で説明することは難しくても、その意味を感じ取り、その子や仲間のために優しい言葉をかけたり、決然と行動したり、それに心から感謝したりする体験を通して、また、その姿をきちんと見とり、豊かに価値付けてくれる職員の指導を通して、笠原小学校の子どもたちは、一年生でも「心に寄り添う」ことを、心の深いところで理解していると思えてなりませんでした。

放送した翌々日の昼休み、5年生のHY君が私に回答を届けてくれました。「『親切』は、帰りの会で水筒を持って行ってあげるなど手助けすること、『心に寄り添う』は、相手の心の中まで考えて何かをしてあげることだと思いますがどうですか」

「私も全く同感です」と伝えながら、真剣な表情でそう話してくれる彼を、そうして笠原小の子どもたちを、誇らしく思う気持ちで胸がいっぱいになりました。誰にも心優しく接し、暑い日も寒い日も、決して手を抜かず掃除に真剣に取り組む彼の言葉には、自らの誠実な行動を通して、深い理解を獲得した人だけがもつ、強く温かい説得力がありました。

笠原小の子どもたちは本当に親切です。誰かのために、自分ができることがあれば何かしてあげよう、自分の周りにそんな「善意のアンテナ」を張っている子が本当にたくさんいます。だから、帰りの会で水筒が忘れてあれば持って行ってあげます。金曜の帰りにはエプロンを渡してあげます。そうすることがいいことなのだという文化がしっかりと根付いています。多くの子が、プリントを仲間に渡すときに「はいどうぞ」と一言添えます。もらった子は「ありがとう」と返します。ごみを拾えば「ありがとう」と声をかけてくれます。その人の笑顔を心から願い、見返りを求めず言葉や行動で働きかけられる、その結果、相手の心にぼうっと温かい灯がともる。そんな言動を選び取ろうとする子がとてもたくさんいます。心に寄り添うとは、笠原小学校の日常の、そういうやりとりにも他ならないことを、HY君の言葉から、なかよし通りに掲げられたたくさんの「温かい言葉」から学ぶことができます。

冒頭で紹介した5年生のキャンプファイヤー係の子達は「仲間の心に寄り添おう」などと意図して行動したわけではありません。しかし、仲間の笑顔をひたすら願って、見返りを求めず、自分のできる全力を、いやそれ以上を尽くしてくれました。その結果、あの場にいた全員の心に温かい灯が灯ったのです。

最初の一人となる勇気をふるい、誰かの笑顔のために行動する。それが「心に寄り添う」ことになると、言葉で、姿で笠原小の子どもたちは示してくれています。